

2016 AIMS Activity Report in Thailand

30 mm

★本レポートはWordファイルで各大学の事務担当者へ提出して下さい。提出期限は12/19 (月) です。

Name	Hanako Hokudai
Home University	Hokkaido University
Period of time	10 September, 2016 ~ 4 December, 2016
Host University	Kasetsart University



40 mm

英語もしくは日本語で作成してください。(自由選択)

三か月にわたる世界展開力強化事業タイ派遣を修了したので活動報告を作成する。今回のプログラムは前半の6週間をバンコクキャンパスにて伴侶動物およびエキゾチックアニマルのクリニカルローテーション、後半の6週間をカンペンセンキャンパスにて大動物のクリニカルローテーションを行った。今回は、伴侶動物編・大動物編(牛、馬、野生動物)・タイ生活編の三つのパートに分けて報告したいと思う。

①伴侶動物編

全6週間の伴侶動物クリニカルローテーションは、前半の3週を伴侶動物内科臨床、後半の3週間を伴侶動物手術ユニットにて実習を行った。

・9/15~10/4 伴侶動物内科のクリニカルローテーション

伴侶動物内科の診療はカセサート大学バンケンキャンパス獣医学部付属動物病院にて行った。

内科診療ユニットは専門医制度を取り入れており各診療科に分かれて日々の診療をしている。診療科は、心臓循環器科・泌尿器科・画像診断科・神経内科・消化器内科・皮膚科・眼科・エキゾチックアニマル診療科・猫専門外来・トリートメントルーム・OPD ルームなどのように細分化され、犬猫の献血ルームなんかもあったりする。僕たち日本人学生はタイ学生チームに組み込まれ日替わりでこれらの診療科で万遍なく診療を行った。伴侶動物の身体検査を基本とし、投薬、注射、採血、特別な検査(神経学的検査など)を実際に教員の指導下において学生主導で経験させていただくことができた。特に OPD ルームでは、学生のみで飼い主の問診や身体検査、治療計画、そして実際の治療まで、すべての行程を行うことができ自分自身にとってかけがえのない経験となった。飼い主が負担する治療費は、学生が中心となって行う診療であるため普通よりは安くなってはいるが、それでも学生のためならばと好意的に症例を提供して下さい。飼い主までもが将来の獣医師育成に一役買っている光景を間にあたりにし、感動、そして羨ましい気持ちになったのを今でも覚えている。

また、エキゾチックアニマル診療科においては日本ではなかなか経験できないようなことを沢山行った。蛇、モモンガ、ウサギ、鳥、金魚、カメ、ハムスターなど多彩な種類の生物が登場したエキゾチックアニマル診療は、いつも賑やかで学生が教員に質問しやすい雰囲気があり、すごく勉強になった。日本の大学でエキゾチックアニマルの診療を教えているところはそう多くはないだろう。このプログラムにおいてエキゾチックアニマルの診療を経験できたことは、獣医師という道を歩む自分にとって貴重な経験となるはずである。

三週間の伴侶動物内科診療は、タイに到着した翌々日から始まったこともあり、生活にもまだ慣れておらず、英会話のストレスと日々の診療の疲れが合わさってとても苦労したのを覚えている。

また、事前に獣医学的専門用語をしっかりと覚えて行っていた方が余裕をもった診療ができたなど今更ながら反省している。

・10/6~10/24 伴侶動物手術ユニット

伴侶動物編、後半の三週間は同じくバンケンキャンパスにある付属動物病院 surgery floor にてひたすら手術手技、麻酔技術の練習を行った。ここでは、整形外科部門・軟部組織外科部門・麻酔部門に分かれ、毎日、手術助手に入らせていただき縫合の練習、麻酔薬の選択と投与等をさせていただいた。

ここでも日本では考えられないほど学生が体験・練習できる機会が多く、日本人学生はもちろんタイの学生も自分から技術を積極的に吸収したいという熱意がひしひしと伝わってきていた。

Surgery unit にて一番印象に残っているのが、日本人学生のみで実施した手術実技テストである。このテストは日本人のみ二人組のペアになり、一つの症例を選択して、術前管理から術後のアフターケアまですべてを行う、というものである。自分は東京大学の学生とペアになり毎日夜遅くまで、最適な手術手技の選択や麻酔計画作成のための議論を交わした。当日試験が終わり、症例犬が麻酔から覚醒し、元気に飼い主の元へ帰って行った時のあの感動と充実感は一生忘れることができないと思う。





↑エキゾチックアニマルの診療風景

②大動物編

10/25にカンペンセーンキャンパスに移動。その日の昼 13:00 頃に到着しオリエンテーションに参加する。10/27~12/5 まで大動物ローテーションを行う。大動物ローテーションは牛ユニット・馬ユニット野生動物ユニットの三つに分かれる。

自分は最初、牛ユニットからスタートした。牛ユニットは往診、通常の実習(超音波検査や削蹄、大動物の麻酔など)に分かれる。

牛ユニットで最も印象深かったのは熱帯地域に特有の感染症・原虫病の症例を数多く見ることができたことである。タイは口蹄疫の非洗浄国であり、普通に往診先で口蹄疫に罹患した症例に出くわすこともあった。他にバベシア症やトリパノソーマ症などの熱帯地域に特有な症例に触れる機会も多かった。そのような症例に触れていくにつれて感じたことは、「アジア全体を一つに考え感染症の予防を図っていかないといけない」ということである。いくら日本のみ口蹄疫などの発生を防ごうとしても、周りのアジアの国々の防疫に対する考え方、意識が甘いままならば、いつか必ず outbreak が起きてしまう。宮崎県で甚大な被害を出した口蹄疫の発生を二度と起こさないためにも僕たち獣医師が国際感覚を身につけ、グローバルな視点で物事を見る必要性を感じた。

・タイ生活編

このプログラムでタイに滞在している間、週末は現地の文化に少しでも触れようと週末は可能な限り観光地などに出かけた。タイの衣・食・住文化を実際に見て、肌で感じ様々な体験をすることができたと思う。また、観光地には外国人観光客がものすごく多く英語の練習になればと積極的にコミュニケーションを取ろうと試みた。屋台のおばちゃんや土産物屋を闊歩している人々は誰もが優しく声をかけてくれ、困っている僕たち日本人留学生を助けてくれた。感謝したい。

タイの観光地の中で特に深く印象に残っているのが、青空の下で優雅にそびえ立つ巨大な寺院を訪れたことである。タイの国民の 9 割は仏教を信仰していると聞く。寺院の中で目にするオレンジ色の袈裟を着た人々の笑顔

と雰囲気は「微笑みの国・タイ」といわれる所を物語っていたように感じた。



枠の下に文字が隠れてしまう恐れがあります。
注意してください。